

概観

【政治・社会】

- ・ ムラデノフ外相、近隣バルカン諸国の訪問を通じ、各国のEU加盟への支援・協力を約束し、経済交流促進のための具体的プロジェクト等について協議。
- ・ ツヴェタノフ内相、汚職・組織犯罪の迅速かつ効率的な裁判を実施するための特別法廷の創設を提唱。欧州委員会から求められている「具体的・実質的成果」の達成を目指す。

【経 済】

- ・ 前年比20%減を予定した2010年国家予算修正案が国民議会の第一読会を了した。
- ・ ブルガリアにおける温室効果ガス排出権取引に関する認可が6月末日で一時停止され、排出権取引に関する全ての取引が実施できなくなる旨、国連から通知された。

【我が国との関係】

- ・ カザンラク市バラ女王と日本語弁論大会入賞者の訪日
- ・ 草の根・人間の安全保障無償資金協力（2件）

この月報はブルガリア各種メディアの報道ぶり等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

政治・社会

1. 内政

◆国民議会：汚職・組織犯罪のための特別法廷創設を検討

▶3日、国民議会は、汚職・組織犯罪の審判のための特別法廷の創設（及び、そのための刑事訴訟法等関連法令の改正）の是非について協議するラウンド・テーブルを開催、与野党、賛成・反対派が広く議論に参加した。

▶与党GERBの他、検事総長、DSB（野党右派）党首、アタッカ（野党ナショナリスト）等が同案に賛成を表明した。また、MRF（野党、中道トルコ系）議員、NGO等が市民の人権侵害の可能性、新たな汚職の発生や国家・市民関係の不安定化を招く危険性があると指摘した。

▶10日、ツヴェタノフ副首相兼内相（与党党首）は、汚職・組織犯罪対策強化の結果、2009年には、同分野での検挙数は21万件にのぼっていると指摘、早急な特別法廷の創設が必要であり、2011

年1月の創設が期待されている、国民議会は今後1ヶ月以内に、関連法令の改正についての討議を開始すると発言した。

◆ボリソフ首相：大統領選候補に言及

▶2日、ボリソフ首相は、次期大統領選挙（2011年）における与党GERBの大統領候補はツヴェタノフ副首相兼内相である旨発言した。同発言の動機についてボリソフ首相は、様々な憶測記事、照会にうんざりしたため、と述べた。後刻、首相は、現時点で何ら確定していないと前言を翻す発言を行った。

2. 外政

◆ムラデノフ外相：近隣バルカン諸国を訪問（5～14日）

▶ムラデノフ外相はマケドニア（5-6日）、セルビア（6-7日）、モンテネグロ（10日）、コソボ（11日）、ボスニア・ヘルツェゴビナ（12日）、アルバニア（13-14日）を相次いで訪問、各国との友好

協力関係を再確認すると共に対話・協力強化へのブルガリアの意気込みを示した。

▶各国訪問に際し、外相はマケドニア、モンテネグロのEU加盟、ボスニア・ヘルツェゴビナのEU及びNATO加盟等、バルカン諸国のEU加盟・統合へのブルガリアの強い関心と支持・支援を改めて強調した。

▶また、コソボ・セルビア間の友好協力関係、ボスニアの領土一体性と独立・欧州統合への参加は、バルカン地域の安定と繁栄にとって不可欠であると強調した。

▶さらに各国との経済交流促進に関する懸案プロジェクト等について協議した。

◆ラスムセンNATO事務総長：ブルガリア訪問（20～21日）

▶「ラ」NATO事務総長はパルヴァノフ大統領、ボリスフ首相、ムラデノフ外相及びアンゲロフ国防相らと会談。「ア」国防相との会談では、ブルガリア軍の近代化、黒海地域の安全保障、ミサイル防衛システム及びNATO新戦略等につき協議した。

▶「ラ」事務総長は、記者団に対し、ブルガリアはNATO加盟以来、強い意欲と明確な責任感を示しており、NATOの諸活動に大きく貢献して

いと述べた。また、アフガニスタンへの貢献を高く評価すると共に、今後は（主に、アフガニスタン警察の訓練に従事する要員の派遣）を要請した由。一方、「ボ」首相は記者団に対し、11月にリスボンで開催されるNATO首脳会合でMD戦略について協議されるまでは、ブルガリアのMDシステムへの関与及び費用負担は明確にならないだろうと表明した。

◆BSEC閣僚会合開催（28日）

▶BSEC（黒海経済協力機構：Black Sea Economic Cooperation）第22回閣僚会合がソフィアで開催され、黒海沿岸国間での経済交流活性化等についての協議が行われた。ブルガリアは昨年11月から半年間議長国（持ち回り制）を務めた。

▶我が国は同機構の「分野別対話パートナー」（メンバー国ではないが、BSEC各種会合への出席を認められる）の地位を申請していたが、本会合にて全会一致で申請が認められた。

経済

1. マクロ経済

◆経済危機政策

▶先月末に政府が発表した経済危機対策案について、4日、シメオノフ・ブルガリア商工会議所会頭は、法人税、所得税及び付加価値税（VAT）の増税については本年末までは行わないことで政府と合意したと述べた。また6日には、ボリスフ首相がVAT等を含むすべての税金について、年内は増税を行わない旨発表した。

▶一方、25日、対前年度比20%にも及ぶ削減を盛り込んだ国家予算修正案が国民議会での第一読会を終了した。（注：第一読会（総論）、第二読会を経て承認されるシステム）

◆直接外国投資の減少

▶17日、中銀は2010年1月～3月の直接外国投資は前年同期比で約6億6,600万ユーロ減少したと中銀が発表した。最大の投資国はオランダ（5億1,200万ユーロ）であり、2位はギリシャ（3,750万ユーロ）、3位はハンガリー（2,560万ユーロ）。

◆ERM2

▶26日、ジャンコフ副首相兼財務大臣は2011年にERM2への参加申請を実施する意向を述べた。同年の参加が実現する場合、早ければ2015年にユーロ貨導入が可能となる旨述べた。政権発足当初、同大臣は2009年11月までにERM2への参加を

達成するとの目標を掲げていたが、目標期日設定の後ろ倒しは今回が3度目となる。

◆排出権取引停止

- ▶13日、カラジョヴァ環境・水大臣は、気候変動に関する国連枠組条約の実施機関がブルガリアの温室効果ガス排出権取引の権利を一時停止する旨の暫定決議を採決したと述べた。6月末日をもってブルガリアは全てのスキームにおける排出権取引が行えなくなり、所定の条件をクリアし、権利回復する目処は早くも11月となる見込みである。
- ▶19日、カラジョヴァ大臣は、6月末日までは、既に契約済みの案件及び所定の手続きを終えたものについては取引が継続できる旨を発表した。

2. 産業

◆天然ガス

- ▶27日、Overgas社（露）は、Bulgargaz社（ブルガリア）との天然ガス供給契約を2011年以降更新しない旨を発表した。
- ▶28日、Bulgargaz社は、overgas社に代わる供給元として、ガスプロム社（露）との契約交渉を開始した。

3. その他

◆海外渡航（28日）

- ▶ブルガリア国立統計研究所は、4月におけるブルガリア人の海外渡航者は昨年同期比マイナス29.5%である旨を発表した。一方、外国人のブルガリアへの渡航者数は昨年同期比7%上昇し、その多くは観光目的である。

我が国との関係

◆カザンラク・バラ女王と日本語弁論大会入賞者の訪日

2009年に選出されたカザンラク市バラ女王ブラジェヴァ氏と今年4月に開催された日本語弁論大会中級の部入賞者エフティモヴァ氏（ソフィア第18総合学校日本語専攻）が日本ブルガリア協会及び福山ブルガリア協会の招待で、ANAフランクフルト支店のスポンサーを得て訪日した。5月12日～25日の滞在中、両名は福山市長表敬、福山市バラ祭パレード、地元中学校訪問など数多くの交流事業に参加し、ブルガリアの顔として各地で市民からの歓迎を受けた。

◆草の根・人間の安全保障無償資金協力

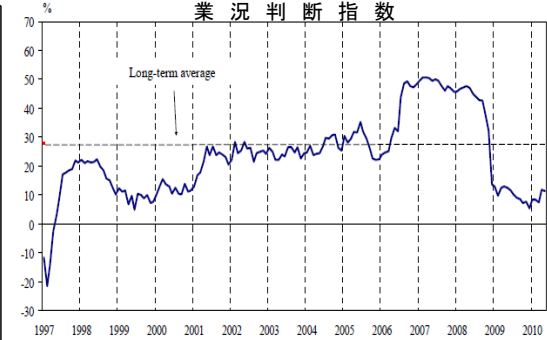
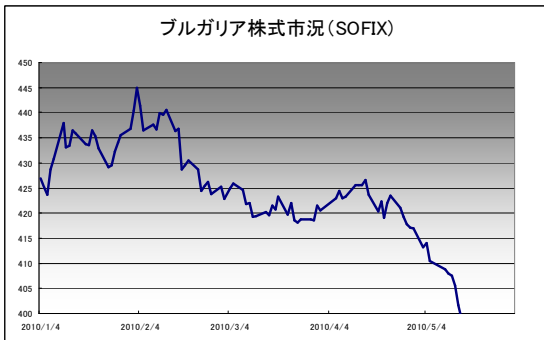
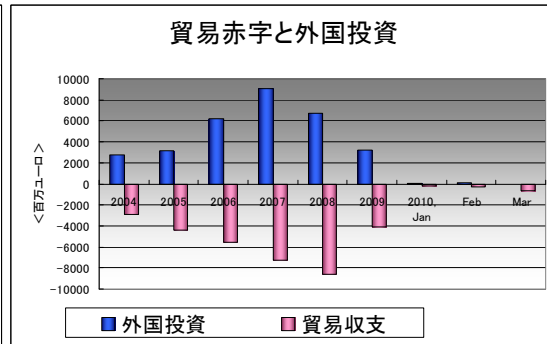
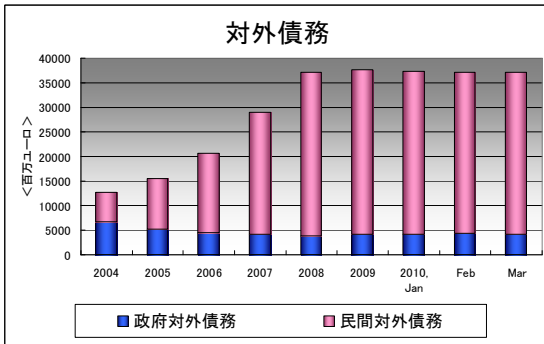
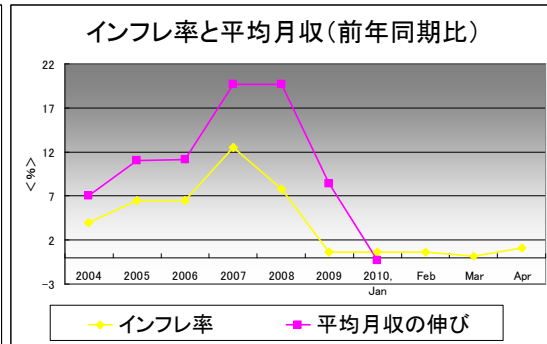
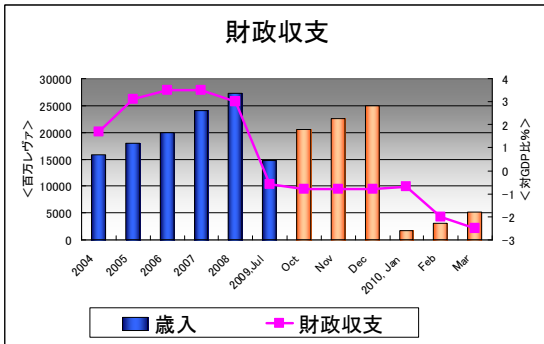
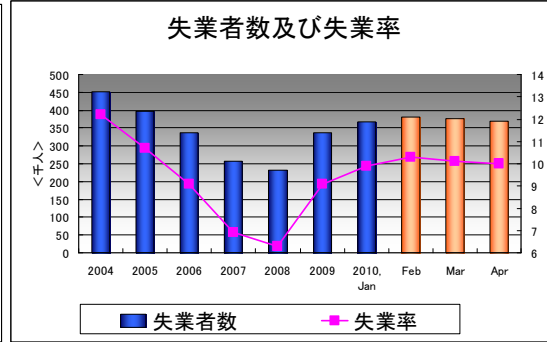
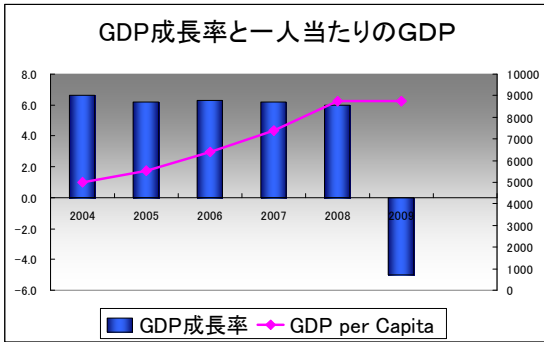
- ▶19日、ブルガリア南部ズラトグラッド市のスネジャンカ幼稚園で、日本政府が供与した37,614ユーロを原資に実施された幼稚園施設改修プロジェクトの供与式が実施された。
- ▶翌20日には、スモーリヤン市のラドスト第4幼稚園施設改修プロジェクトの供与式が実施された（日本政府が35,534ユーロを供与）。

ブルガリア内政・外交の動き（5月）

在ブルガリア大使館

1（土）	
2（日）	
3（月）	☆ムラデノフ外相：核拡散防止条約（NPT）再検討会合出席（於：ニューヨーク）
4（火）	
5（水）	☆ムラデノフ外相：マケドニア訪問（～6日）
6（木）	☆ムラデノフ外相：セルビア訪問（～7日） ●ボリスフ首相：付加価値税等の増税を年内は実施しないと約束
7（金）	
8（土）	
9（日）	☆パルヴァノフ大統領：第65回第二次大戦終結記念式典（於：モスクワ）出席
10（月）	☆ムラデノフ外相：モンテネグロ訪問
11（火）	☆ムラデノフ外相：コソボ訪問
12（水）	☆ムラデノフ外相：ボスニア・ヘルツェゴビナ訪問 ☆ライコフ外務次官：スペイン訪問。外交関係樹立100周年記念式典に参加
13（木）	☆ムラデノフ外相：アルバニア訪問（～14日）
14（金）	☆ツァチェヴァ国民議会議長：EU加盟国会議長会合出席（於：スウェーデン）
15（土）	
16（日）	
17（月）	☆パルヴァノフ大統領：EU・ラテンアメリカ・カリブ海首脳会議出席（於：マドリッド）
18（火）	☆ツァチェヴァ国民議会議長：スペイン訪問
19（水）	
20（木）	☆ラスムセンNATO事務総長がブルガリア訪問（～21日）
21（金）	☆ ツァチェヴァ国民議会議長：チェコ訪問 ☆ ボリスフ首相がローマ・バチカン訪問（～24日）
22（土）	
23（日）	
24（月）	
25（火）	
26（水）	
27（木）	☆パネッタCIA長官：ブルガリア訪問
28（金）	☆第22回黒海経済協力機構（BSEC）外相会合（於：ソフィア）
29（土）	
30（日）	
31（月）	

ブルガリア経済指標（2010年5月）



出所：統計局、中銀、ソフィア証券取引所

ブルガリア主要経済指標（2010年5月）

< GDP成長率と一人当たりのGDP >

	2004	2005	2006	2007	2008	2009
GDP成長率	6.6	6.2	6.3	6.2	6.0	-5.0
GDP per Capita	4989	5529	6411	7379	8753	8735

< 失業者数及び失業率 >

	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	Jan	Feb	Mar	Apr
失業者数	451	397	338	256	232	338	367	376	380	376	369
失業率	12.2	10.7	9.1	6.9	6.3	9.1	9.9	10.3	10.1	10.1	10

< 財政収支 >

	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	Jan	Feb	Mar	Apr
歳入	15855	17991	20023	24063	27317	14751	20543	22476	25022	3088	7493
財政収支	1.7	3.1	3.5	3.5	3	-0.6	-0.8	-0.8	-0.8	-2.0	-2.5

< インフレ率と平均月収 >

	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	Jan	Feb	Mar	Apr
インフレ率	4	6.5	6.5	12.5	7.8	0.6	0.6	0.6	0.6	0.2	1.1
平均月収の伸び	7	11	11.1	19.7	19.7	8.4	-0.3				

< 対外債務 >

	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	Jan	Feb	Mar
政府対外債務	6585	5198	4547	4092	3902	4159	4221	4252	4216	
民間対外債務	6073	10309	16144	24925	33198	33547	33074	32987.0	32930	

< 貿易赤字と外国投資 >

	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	Jan	Feb	Mar
外国投資	2736	3152	6222	9052	6697	3213	52.9	146.9	-21.9	
貿易収支	-2954	-4410	-5562	-7245	-8597	-4103	-173.7	-310.6	-624.1	